東海地震

安政某年十月二日九ツ時地震銅像元銃
器ヲ布告之令出其夜二更部下地震
一時揺動欲崩嗚類ヲ令不及布
告而息余官吏相知地震発時兵府
ヲ公所建議　斗宮某記

雲外山人書

東方
降三世明王
西方
大威德明王
南方
軍荼利明王
北方
金剛夜叉明王
中央
大聖不動明王
中央

南方
軍荼利明王
北方
金剛夜叉明王

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible] 一丁 小[illegible] 一丁

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 八十[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

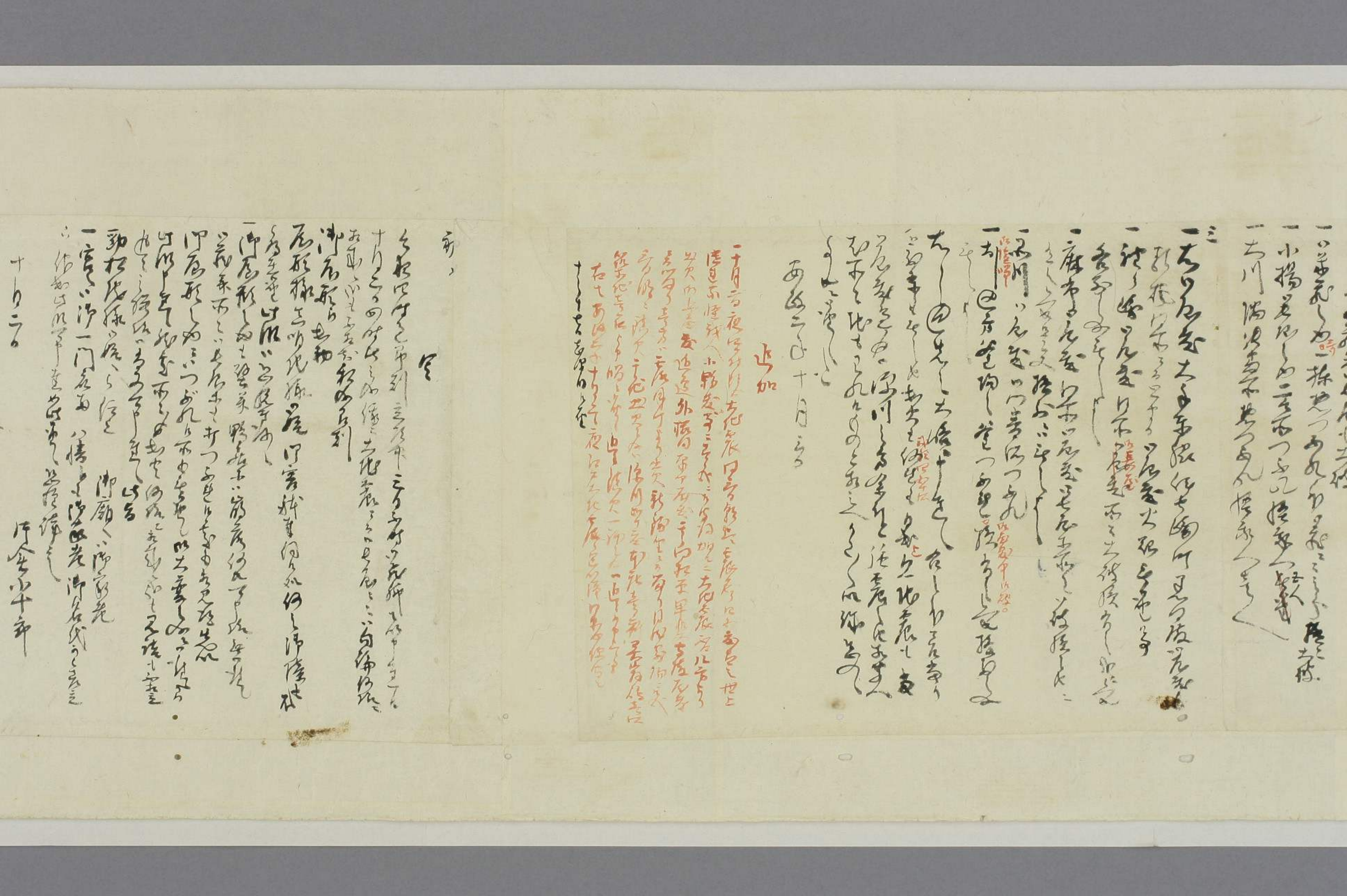
一 [illegible]

一 [illegible]

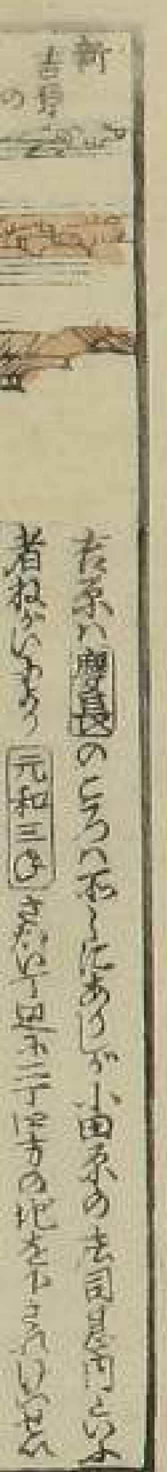
一 [illegible]

一 [illegible]

一 小橋[illegible]



仁義礼智忠信孝悌のうち孝行によりて身を立る人は
孝をつくし候得ば[illegible]壱国[illegible]
[illegible]
[illegible]安政二年卯十月二日夜[illegible]
御震起り家[illegible]
[illegible]
荒川[illegible]南の方[illegible]松平[illegible]様
[illegible]毛利大膳大夫様[illegible]
[illegible]松平[illegible]様[illegible]
[illegible]様[illegible]松平安芸守様[illegible]
[illegible]
竹丁[illegible]
松平[illegible]様[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
八之日[illegible]

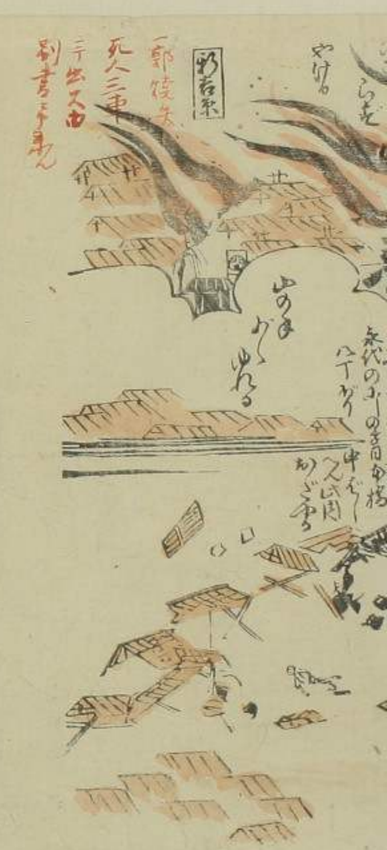


[illegible]

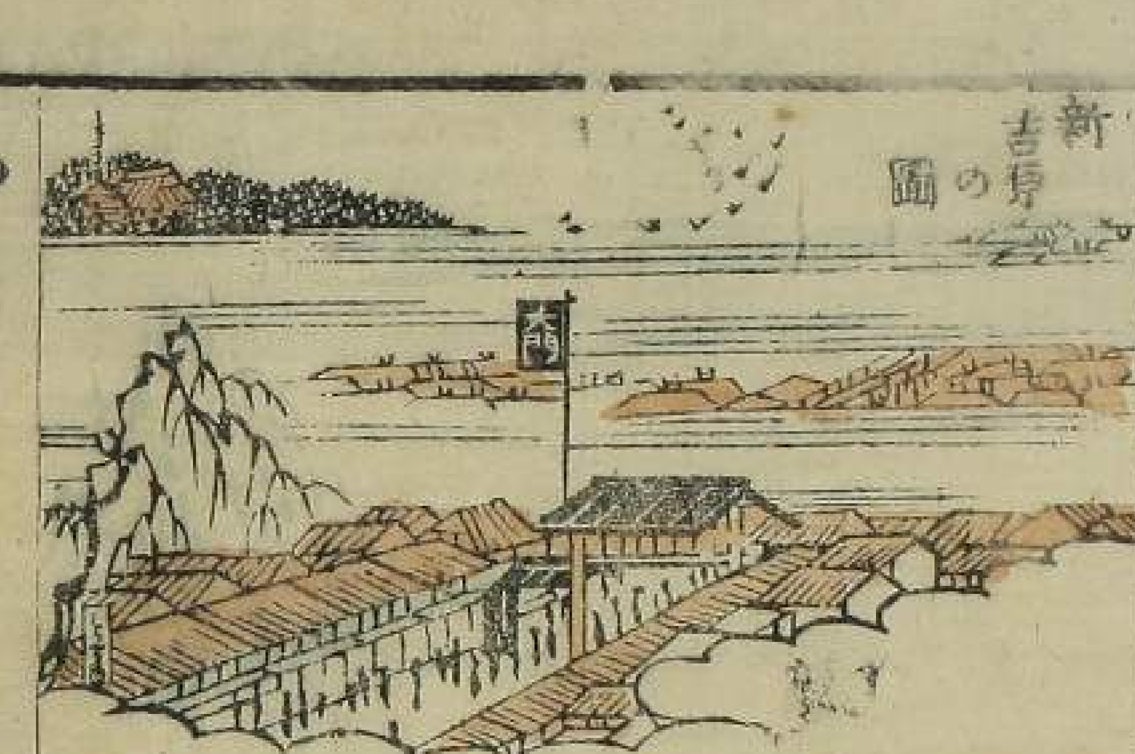
大江戸類焼地震帳

上野・山下

御救 浅草廣小路
御小屋 深川海辺大工町
二ヶ所 幸橋御見附外原



むさしあぶみ写（うつし）



吉原ハ慶長のころハ所〻にありしが小田原の庄司甚内といふ
者ねがひあげ元和三年さかい町二丁四方の地を下されけるゆへ
町〻を拝領し免許ありし[illegible]正月十台[illegible]丸山の
[illegible]
とりしまり昼夜見世かり宅の初めありしを[illegible]今の地
[illegible]江戸町京町角町[illegible]
[illegible]
八月[illegible]新吉原[illegible]
明暦三年正月 寛文四十月 延宝元年十二月 元禄四二月
同十二四月 宝永三十月 享保六三月 同十七
十一月 元文二正月 延享元七月 同二七月 同三七月 宝暦元
八月 同六正月 明和三二月 安永四九月 天明六十二月 寛政二
八月 同八四月 享和二四月 文化十一三月
文政七三月 天保六正月 同八十月 弘化三十二月
五日[illegible]本所深川[illegible]

[illegible]百九十九年明暦三年正月十八日十九日の[illegible]本郷丸山本妙寺より出火して
とりわけ西北の風つよく湯島[illegible]小石川[illegible]同時に[illegible]大火となり
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]十万[illegible]人焼死[illegible]
[illegible]豊国山[illegible]
十万余人焼死人の[illegible]
[illegible]万治元[illegible]同二年[illegible]元二月
廿九日大雨の[illegible]
[illegible]焼[illegible]
[illegible]十八日
十九日[illegible]
[illegible]廿九日[illegible]焼[illegible]
焼死人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人八十[illegible]百人[illegible]八十[illegible]年
十六 極月廿九日 [illegible]
二月四日 宝暦十 二月六[illegible] 明和九 二月廿九日 [illegible]
七月廿一日 [illegible] 小石川 [illegible] 文化三 三月[illegible]
十日[illegible]六十二年 文化三 [illegible]
[illegible]十年 [illegible] 三月二十七年
天保[illegible] 二月七日九日十日廿二年 弘化三 [illegible]
人[illegible]八十[illegible] 安政元 [illegible]
同二年十月二日夜[illegible]大地震[illegible]
[illegible]深川[illegible]

遠國を在々迄事とかきんなる委細と書る也

大江戸 類焼 地震所附（ぢしんのばしよづけ）

御救 御小屋 二ヶ所
浅草廣小路
深川海辺大工町
幸橋御見附外原

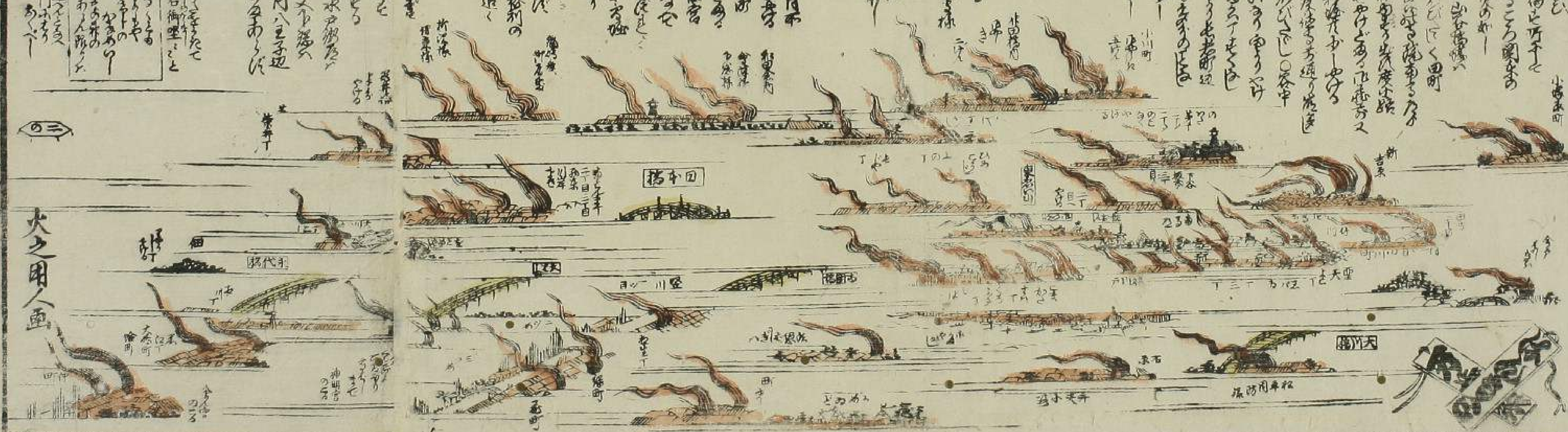
上野山下

乾坤和順せざるときハ陰地中に満て時不發是地中に地震となる海上に津浪となる山中に發するときハ… [illegible]

[illegible]

▲焼失地長さ凡 但シ里数ニして 百五十九里二十一丁あり
▲焼失土蔵の数 十万四千五百八十二あり
▲ 五万二千五百九十六あり
▲ 一萬五千七百二十三あり
▲ 十二万千四百三十八あり
▲寺院 其の数 五千八百三十五あり
▲ 九八百四十五万七百九十八之

ちんのましない

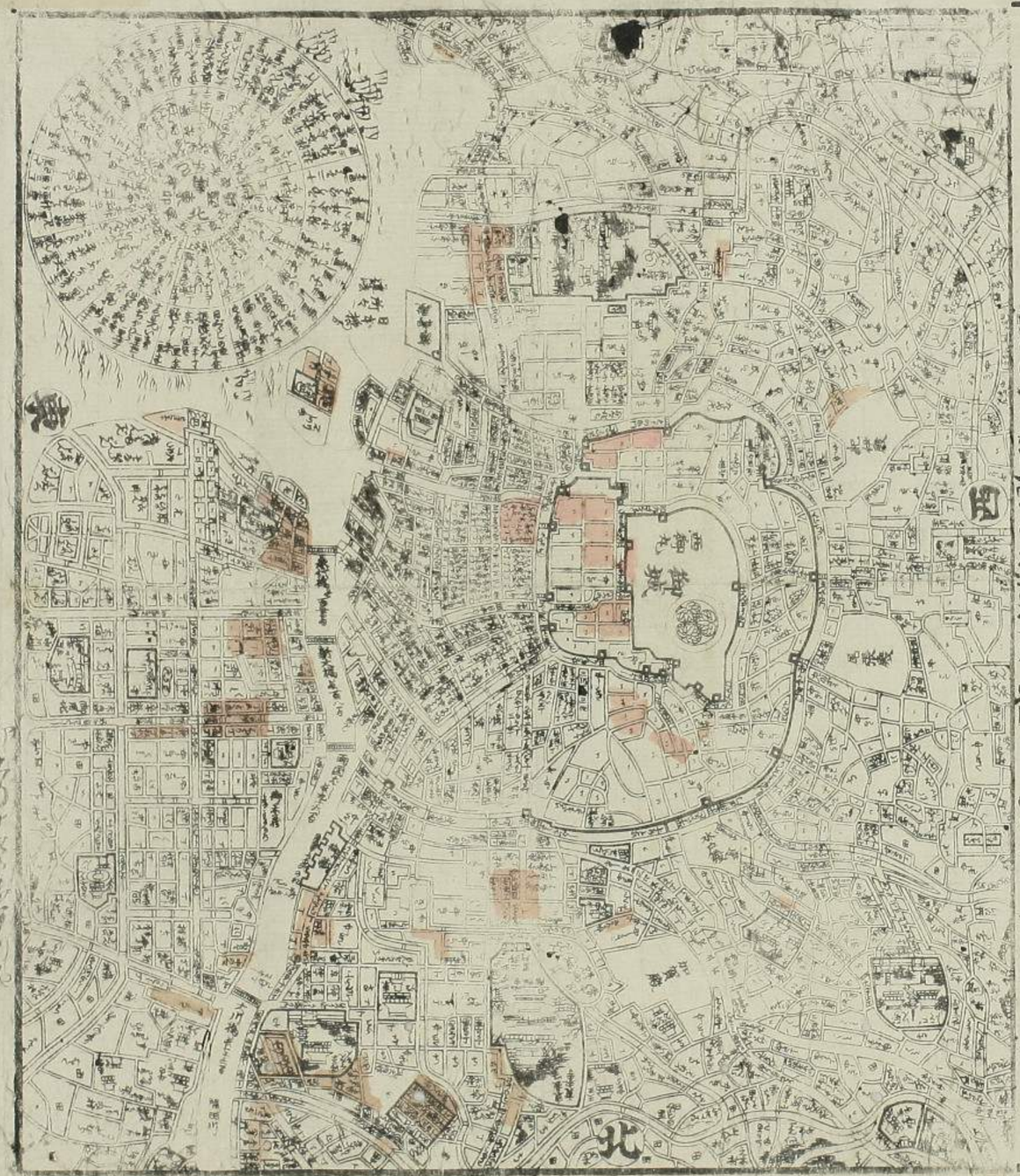


火之用心

改之 出火のせうこ三十二ヶ所なれども…

東京大地震

江戸地大火之注



○町数七千七百十七
○人数七十万三千
○焼失家屋三十万
○死人数二万

○小石川安藤邸ハ一万千七百二十三人
○武家ハ男　女ハ数ハ十三万千四百三十八人
寺院僧尼　五十八百三十五人
土蔵数　九八百四十五万七百九十八ヶ所

政人　出火の時の三十二日夜

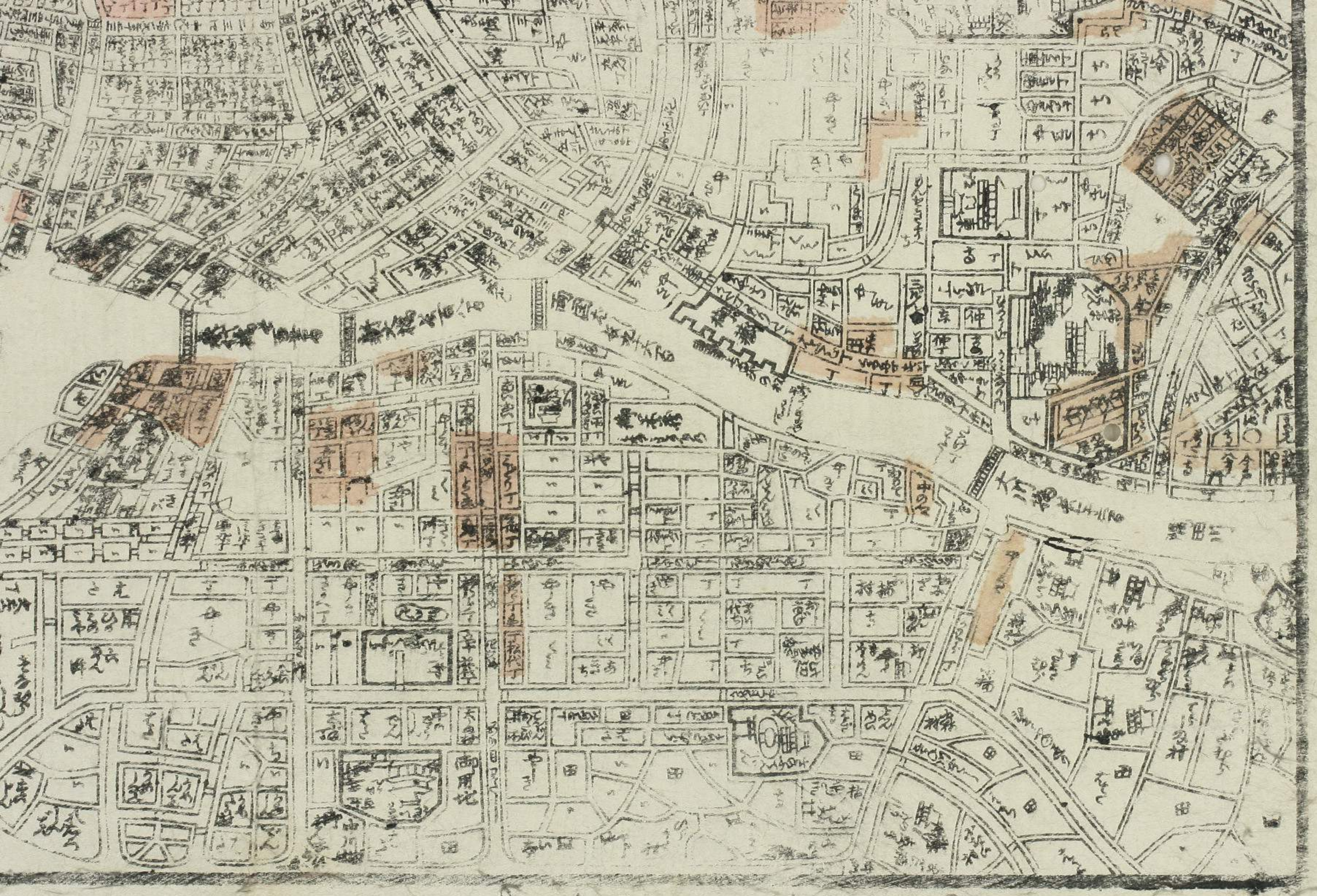
火之用人画

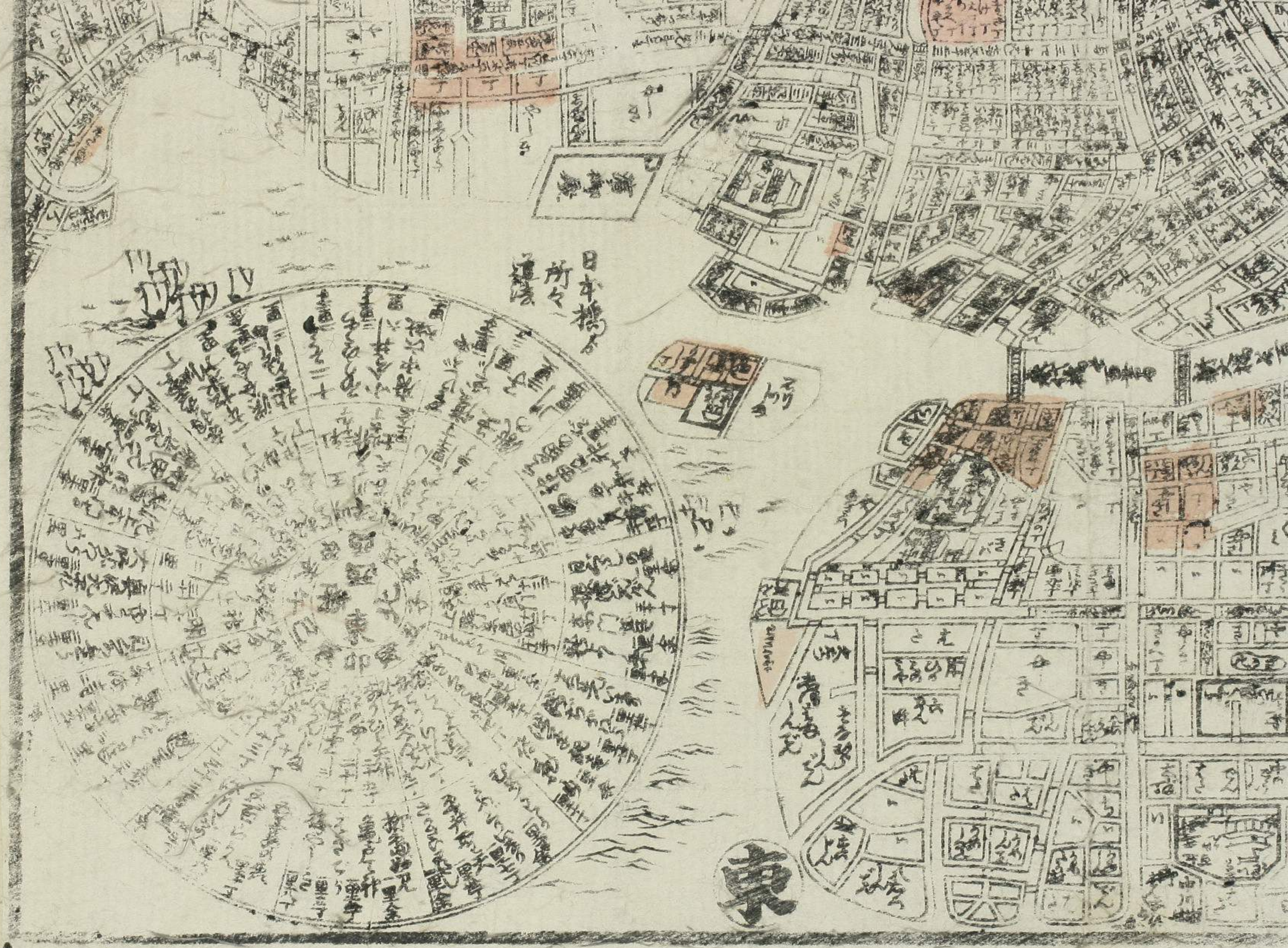
江戸大地震出火界図

○ 町数凡三千拾二町余ニ付
△ 土蔵凡十万八千余社
□ 御屋敷方様大小名三百二十軒社
□ 御旗本方様小屋敷
○ 死亡人

西御丸
御城
加賀殿

御城
西御丸




日本橋
東

東関 江戸地震 出火場所

地震出火 御救小屋施行名前 并 近辺居廻り施行

聖代記

天災地変人命の時ハ人知ハ智をもて量るべからず齢命絶滅せしを然るに草根木皮の能生くるあらんかぎり二命再生れ洪水を紙一命鵲の救命を得るが如し是聖恵仁術なるべし故に天道の冥助あり一時に発し一四民の困窮人命の死亡家庫堂社の破損焼亡許多の数を知らず朝に焼野を夕に廛に染まる人々地上に引く寒風に身を晒し哀しのみも祭りありかるる中にも官府の御仁恵莫大なる難民撫育の御徳沢ハ實に大平の御国恩ハ云ふ所ハ救小家を建させられ給ひたるなり

敬喜を増殖人安堂に方歳を唱ふ幸辛の式仁を好し富有の商家財を分く貧しき者施行せしむ大御威名政の徳二家仁多き二国仁を敬ひ拝御して伸て又貴むべしと奉

安政二卯初冬　甚三　野山寄小奥謹白

五ヶ所御小家

浅草廣小路　深川海辺新田
幸橋御門外　同所八幡宮境内
上野火除地　東叡山御小家　上野御山下

故ゆ天道の冥助あり下時安政二卯十月日夜不意の天変一時ゆ發〻〻西民の國窮人命の死亡家軍堂社の破損焼亡部多の數を知らず朝ゆ焼野ゆ成屋ゆ楽ま久〻地上ゆ引く寒風ゆ身を晒し裏土のふも際りありかる中ゆも官府の御仁恵莫大ゆと難民撫育の御慈沢ゆ實ゆ大平の御國恩ゆ〻〻既ゆ安所ゆ救小家ゆ建ることゆ難ひ者ゆ〻〻敬意を惜者人安堂〻と万歳を唱ゆ奇〻の民仁を好〻富有の商家財を分く貧〻の者ゆ施行せむ大御威恵政の德ゆ家伝ゆ名を二國仁を忘ゆ智祈御〻と御〻〻又貴地へ〻伝地

安政二卯初冬　甚三　野岩苛小奥謹白

五ヶ所御小家
浅草廣小路
幸橋御門外
深川海辺新田
同所八幡宮境内
上野火除地
東叡山御小家　上野御山下

地震用心の歌
魚の名十
鳥の名十
虫の名十
草の名十
木の名十
地震の日を
焼き
職人の
江戸前
鯰大明神焼

魚の名十
さばのきもあますすゞめりくちとひらら
むやくいおせよふきさくちら

鳥の名十
何ときもきうしわくはわらかりとわ
我へかけとひさきたへたちめよ

虫の名十
あかぐもけはむしてふきいてさま
ぶれのくまくてやぶかおしまき

草の名十
ゆりあんではいまふうとききくとても
はくかきさくれあざしわもん

木の名十
つれひきさやむやと気を
ともみきりぬすくもめどうし
地震すた日そ

焼さへあまれバ
職人ハ
めしを
食ひ

口上
御町で此火えにて皆様ゆられぬものもなく
手前店もこれ迄ゆがみ打倒せ
家内一同大道にて鯰をさいて
お目に見せ申候 何卒御賑々しく
一夜ふく御ためしあげ奉り候
一 うなぎ 破やき
一 骨抜 どぜう
一 あまり日か蒔
十月二日より
諸方え大工町
鯰のや
ひま蔵

そもそも今年ハ卯のとし
二日の物語より世間ハ御案内
めぐり家蔵大小の地震
そもそもいまだ田町町打あらし
家のうちみの程まで
くらまへ出ての地のはだ
ぐらぐらと十月一日の日つなぎ
ほかにも出かけて来て
するどく見くれ家を焼に
大道中に伏すどうもなく
てんでに物を出し
嫁らぐらと渡世をもなく
まれに此処死なずに
此の若の一誠で名を揚ぐ

御ぞんじの御見るの
おそれはしき
せんしやうにおそろしく
此の先を知らず
ありがたき御代の永代
五丁目の度あるびの人の
甚ひくかる鯰を
晩から安宅
ぞら中にて家破し
多くの人中ども
ぐらりと揺れて
ごとの二階へ
若ふされ
川戸まで

むかしみへりくや一ト言はゞ是なし
二日の初夜より地震は江戸中
めぐり家蔵土や屋地のうへ
むかしよりしかし田町は村あらし
家(ありかず)みのほまん(全)で目前の
まはりへ安からん見のなすき付こみ
くらゝ十月一二日にひよひつゑ
まいとしは山へどうもおもひは
あたゞくれつ(当)り問屋の家(は)ぜ
大道中へ伏(ふし)すどつちは角丁たつ
みな私が出るとは…は…
けらゞらと迄…すこしもなきらん
あはれ…おびは江戸町へ…
に若…をぐん石を揚屋丁さへ
京町をとられ地のくりぶじの…
暴…くさへ…石垣蔵の
…の…居まで…蔵は
…せつ…
仲の丁へおもどわざる…
…
土蔵(どぞう)…
御…
ひとし
おみの…京橋より

御ぞんじの御なじみの小
おぼしめしはおもひがけ
せんしかたもなくぞ…
いかにもおそれ入江丁で…
みなさま…せんは永代より
五丁目…人々
甚(きのど)くなる…天して…
晩(ばん)…安宅(あたけ)…
守…の…
多(おほ)くの人…
…へ…の丁
ご…の二階へ…
宿(やど)小さな…
川…
下村合…
…焼…
御のりと…神…
…田町丁…
お守(まもり)おれ…
…さんの…
…
…神…
…万代…
京海…

ぢん者ん要石
大黒の
紀の長丸

安ん石要石

紀の長丸

生捕まつ[illegible]の大[illegible]

生痛連の大酒宴

おまつり
かぶと焼
いろは

恵比寿天申譯之記

恵比寿天申譯之記
自身除之守
西方
南方
北方

自身除之守

若鯰

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

新板 江戸大地震

一名 不自由散

効能

一 職人　一 材木屋　一 車力　一 日雇

一 人入　一 借金　一 施行

禁物

一 高利座頭　一 地面持　一 株持　一 うけ取

一 諸芸人参　一 猫の皮　一 土蔵

○ 用様

[illegible]

本家取押札明所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御評判(?)

効能

一 職人 一 材木屋 一 車力 一 日雇

一 人入 一 借金 一 施行

禁物

一 高利座頭 一 地面持 一 株持 一 うけ取

一 諸芸人参 一 猫の丸草(?) 一 土蔵持

○用様

本家取押乳明所

[illegible]

新板 江戸大地震くどき

さんさへあはれな地しんのくどき
ところは安政二年の冬よ月は十月
二日のばんにさくもおそろし大風
あじしるの四ッ時ゆりくる地
しん親は子をたづね子は親をたづね
にげてゆくのいとまもせぬは又も
揺り出しておちる家をはさし
くる火のおそろしさよそしの
あまりにもなたなれかし石
のやうやつちのそれめにとそを
はさんでかなたはなしそ国を
なにも無数出しそれは世上
に神もなく仏もなくへの神
や仏となるまなこぞたすけた
まへや山坂ゆりにてまかせと
地しんは日にかればの後大火と
なりしとれでさんたるその人数は
凡十万八千余人ばかりもかぞれな
みのけもよだつやけてそのあ(?)
わのぐとかけるやんまい

それにさつゐてあはれなるは(?)
[illegible]
さるヤンレイ

近郷近在 江戸大風雨出水数

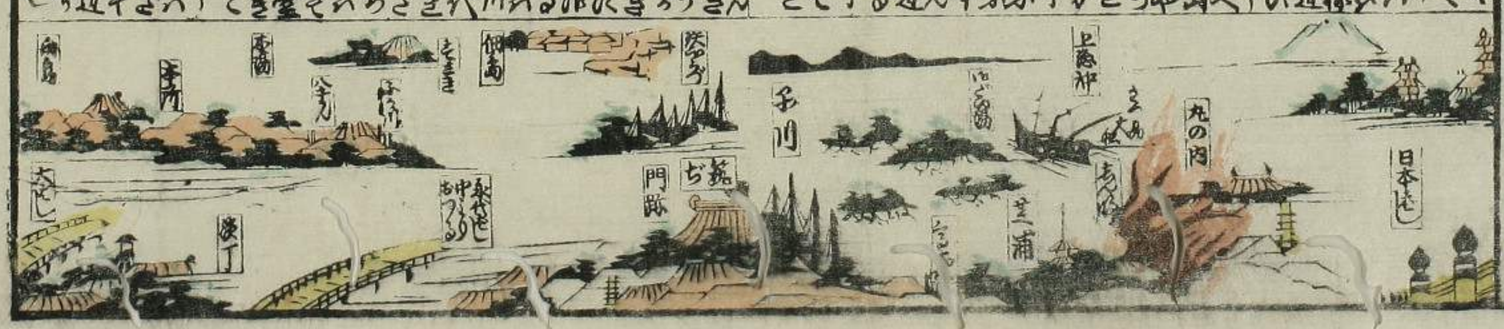
[illegible]

日本橋

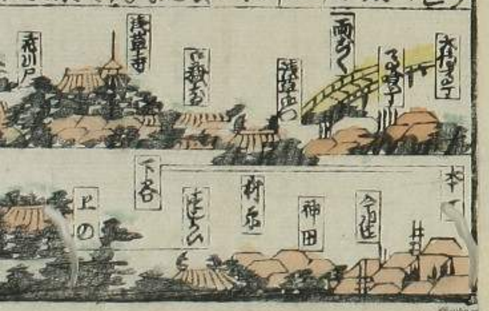
近郷近在大風雨出水絵

日本橋南の方

日本橋東の方



日本橋北の方



安政三辰八月廿五日

大風雨出水損場所之圖

東の方

日本橋北の方

日本橋西の方

近江國近江

安政三辰八月九五日 大風雨出水損場所之圖